

「SDGs未来都市・徳島市」が目指す持続可能な循環型まちづくり



2023年2月7日

徳島市長 内藤 佐和子





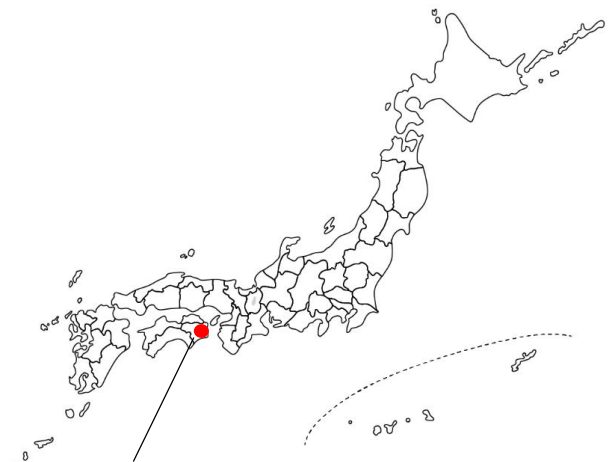
Naito Sawako

徳島市長 内藤 佐和子

- 2003年 3月 徳島文理高等学校卒業
- 2009年 1月 まちづくりグループ「徳島活性化委員会」代表
- 2010年 3月 東京大学法学部政治コース卒業
- 2011年 2月 徳島市きらめく女性大賞受賞
- 2013年 4月 四国放送の情報番組「ゴジカル！」月曜コメンテーター
- 2020年 4月 徳島市長に就任
- 2021年 3月 在日米国大使館及び駐大阪・神戸米国総領事館から「勇気ある女性賞」を受賞
- 2021年 4月 内閣府「男女共同参画会議」の議員に就任



徳島市について



面積	191.52km ²
広さ	東西：16.4km 南北：19.45km
位置	東経：134度33分 北緯：34度4分

● 水都 とくしま

- ・ 市内を134の河川が流れ、江戸時代には豊かな水環境を背景に藍産業が隆盛し全国有数の商業都市となるなど、水とともに発展してきた。
- ・ 川で囲まれた中心市街地の「ひょうたん島」エリアは、周遊船の運航、親水公園の整備、阿波おどりなど、官民が連携して特色ある事業を推進している。

● 中心市街地活性化

- ・ 百貨店撤退などにより、街からにぎわいと活気が失われていく状況を打破するため、「徳島市中心市街地活性化基本計画(令和4～8年度)」を策定し、国の支援措置を活用しながら、新たな挑戦や投資が継続的に生み出されるまちづくりを進めている。

● ダイバーシティの推進

- ・ パートナーシップ制度の拡充や生理の貧困問題解消、働く女性の活躍推進など、誰もが自分らしく安心して暮らせる共生社会を実現するまちづくりを進めている。

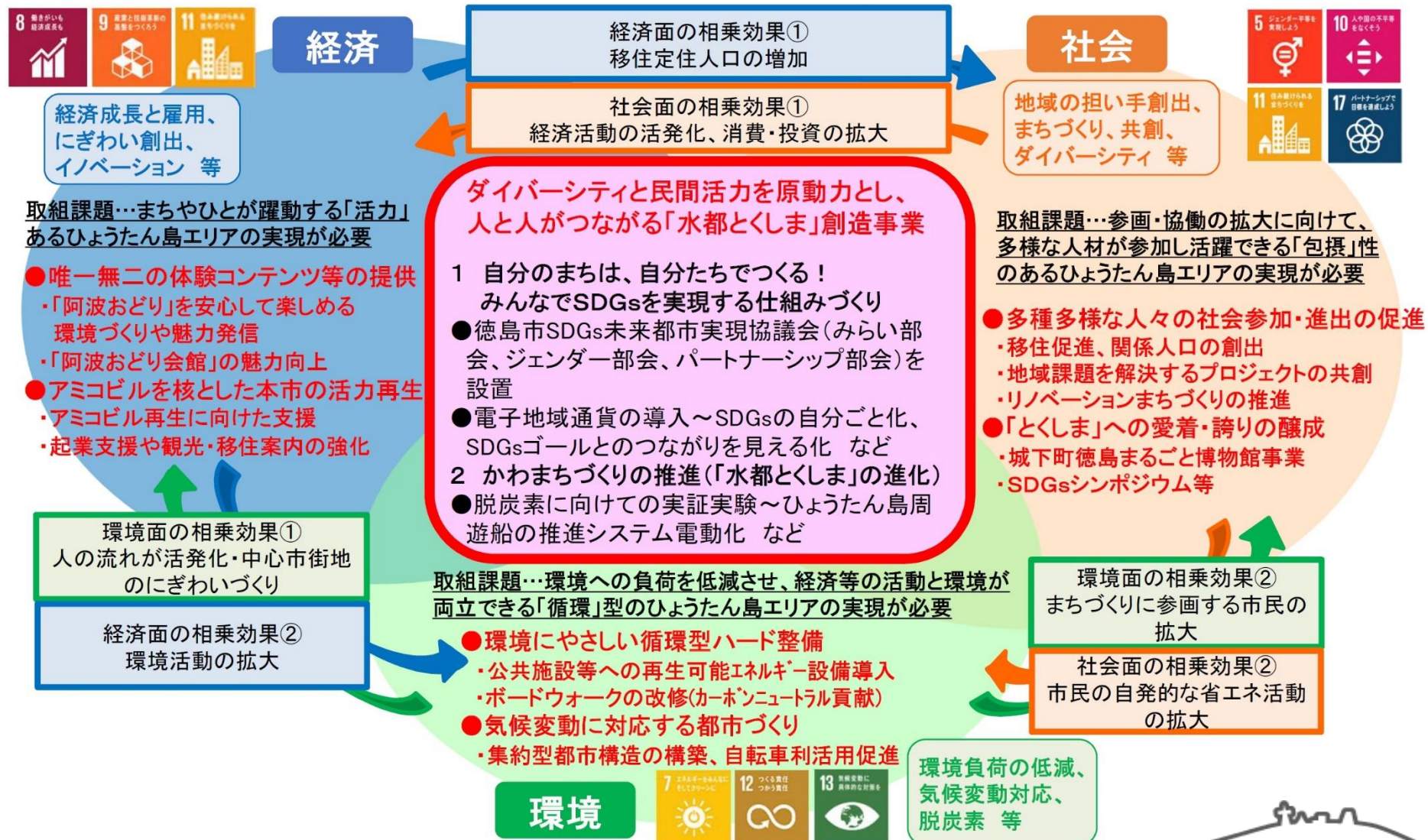
SDGs未来都市 に選定 (2022年5月)

ダイバーシティと民間活力を原動力に、人と人がつながる「水都とくしま」の実現へ



SDGs未来都市としての取組み

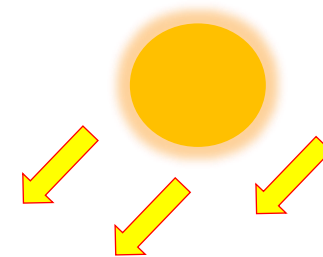
● ひょうたん島エリアを中心としたSDGsモデル地区形成事業





脱炭素に向けた方向性

【日照時間】 全国の都道府県庁所在都市の中で6番目に長く、太陽光発電に適した都市



地域特性を生かして、太陽光発電の普及に取り組む

再生可能エネルギーの地産地消

SDGsモデル地区
「ひょうたん島エリア」

×

再生可能エネルギー
の導入



徳島市が抱える様々な課題を一体的に解決

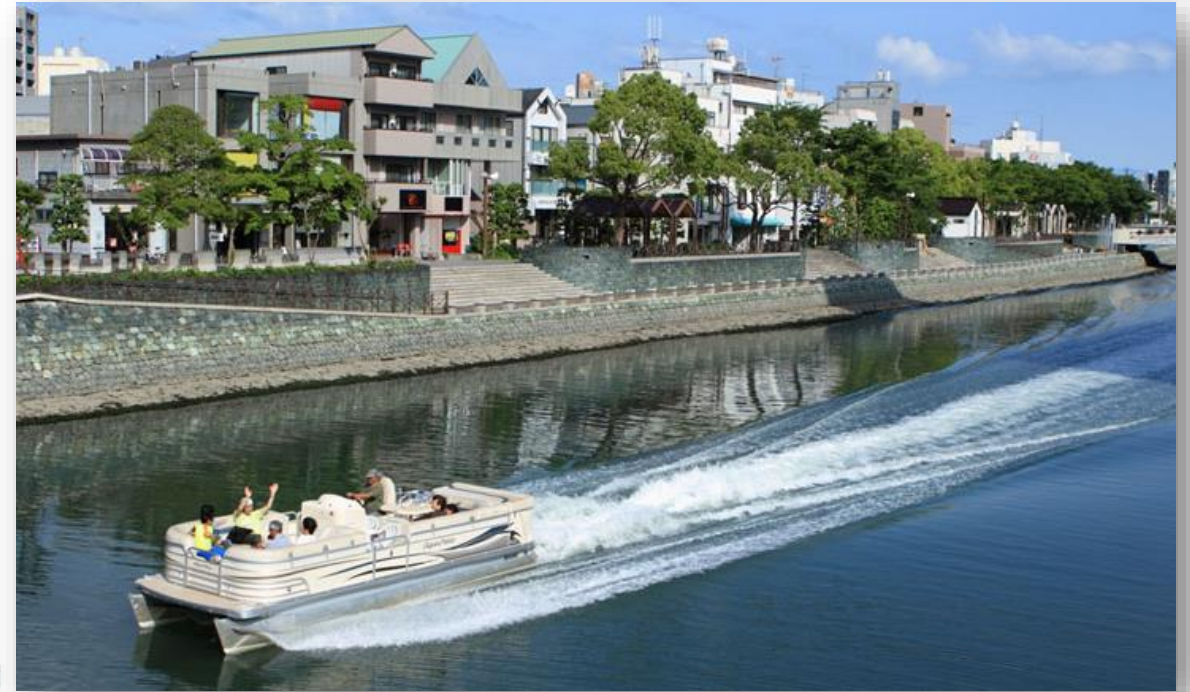
- 街のにぎわいづくり
- 多様な交流機会の提供
- 新たな民間投資の活性化 など

※ ひょうたん島

- ・水都とくしまを象徴する、中心市街地における川に囲まれた地域
- ・徳島市SDGs未来都市計画におけるモデル地区

ひょうたん島周遊船について

- ・川で囲まれた中心市街地の「ひょうたん島」を周遊
- ・1996年、「NPO法人新町川を守る会」が運航開始
- ・毎年5万人余りが乗船



「水都 とくしま」の象徴的な観光資源

市民が日常的に川を楽しむ資源



周遊船の電動化

<船舶分野における現状>

電動化が進む自動車分野に比べ、船舶分野では未だ化石燃料による駆動システムが主流

➡ ヤマハ発動機株式会社との**官民連携**により「ひょうたん島周遊船」を電動化



◆ 同社が開発している**次世代電動操船システムHARMO(ハルモ)**を周遊船に搭載

◆ **周遊船×グリーン電力**（再生可能エネルギーを用いた電力による給電）

★ **実装に向けた実証実験**に取り組んでいる。

★ 次の段階では、**自家発電の太陽光による給電体制を構築**し、カーボンニュートラル運航を目指す。





一帯のカーボンニュートラルに向けた『今後の展望』

点から面へ

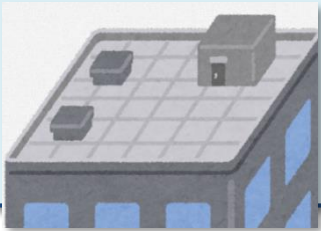
観光客や市民に親しまれている周遊船の電動化



発着場公園、さらには、中心市街地エリア全体のカーボンニュートラル

例えば・・・

- 周遊船発着場の親水公園
⇒ LED装飾などへの電力供給に、太陽光発電を用いた給電体制の検討
- 中心市街地における公共施設や集客・交流拠点
⇒ 太陽光パネル設置や給電設備の設置(グリーン電力供給拠点)の検討



+ 環境負荷を低減し、経済活動と環境が両立できるエリアの実現に向けた取組み

- ・ 公園のボードウォークの改修にあたり、ウッドデッキ材を焼却処分せず再利用
- ・ 自転車通行空間の整備をはじめとした自転車の利活用促進



ご清聴
ありがとうございました。

2022阿波おどり「総踊り」